

令和4年度 第4回 校長「語らいサロン」

「宿題（家庭学習）」について

日時：令和4年11月5日（土）9：00～10：10

場所：集会室

参加者数 25名



川中子 それではお時間となりましたので始めたいと思います。皆さん、おはようございます。土曜日朝早くから学校に来てくださりましてありがとうございます。たくさんの方にご参加いただき、本当に嬉しく思います。今日もどうぞよろしくお願いいたします。えー、ちょっと距離があるから大丈夫かなと思いますが、マスク、した方がいいか？ よろしいですか？それでは、これで失礼します。

今日は、4回目のサロンということで、今、学校が目指している主体生の育成ということについてのお話なんです。テーマは「宿題について」ということで、家庭学習も含めて宿題ということについて考えていきたいと思います。このテーマはですね、今年は皆様から応募してもらったご意見で。今回のテーマを寄せて下さった方は、残念ながら今日はお見えでない様ですが、まず、こういうふうに書いてきてくれたというのを紹介して、今日の話スタートさせたいと思います。

「先生方や保護者の皆様で意見の分かれるところかと思いますが、「宿題」について一意見をお伝えできればと思います。宿題をやる子は正しく、やらない子は間違っているかの如く、「宿題をさせるよう」言われるのですが、正直宿題の存在に疑問を抱いております。宿題を課してやれやれと責め立て、学が事は嫌なことだと思わせるのが本当に正しい事でしょうか？学が事が楽しいと思えたら、勝手に自分で調べたり学がと思えます。」

というご意見が寄せられました。これは面白いな、ということで、今回のテーマとしたところです。

では、今日はぜひ、皆さんの意見をたくさんお聞きしたいと思っております。まず初めに、皆さんの自己紹介をお願いします。お名前と一緒に、ご自身の宿題についての思い出をお話いただけますでしょうか。それでは、こちらからお願いします。

宿題の思い出

Aさん 1年生の娘と3年生の息子がいるAです。私自身、小学生の頃は宿題は嫌いでした。だけど、息子は宿題は絶対家でやらなければいけないのだと思ってやっています。何がなんでもやろうとしています、息子は、で、娘は「そんなのもういいんだよ！」っていう感じで投げ出す。絶対宿題は家でやらなければならなくて、もしプリントを忘れたら、学校でやればいいじゃない、早く言ってるんだから！って言うてるんですけど、学校じゃやっちゃダメなんだ！と。宿題=家庭学習だと思っているので、私自身は宿題があった方がいいなと思っているので、皆さんの意見をお伺いしたくて、今日は参加しました。よろしくお願いいたします。

Bさん Bです。4年生と2年生に息子がいます。私自身、宿題の思い出はほとんどなくて、勉強、宿題が苦痛というイメージもあんまりなかったんですが、結構息子たちにとってはちょっと苦痛みたいで、親がやれやれって言わないとやらない。逆に、今になって親のが苦労してるみたいな感じです。よろしくお願いいたします。

Cさん Cです。2年生に娘がいます。自分自身宿題は、何か当たり前、というか、何も疑問も持たずにやっていたので、そんな思い出というようなものはないんですけど。娘は、宿題の種類に好き嫌いがある、トッピングはすごい楽しいみたいで、自分が好きなことができるっていうことで、進んでやるんですけど、国語とか算数とか、決められたものっていうところはちょっとやだなあという感じがする

Dさん Dです。4年生に息子がいます。私自身も自分が学生時代は宿題は当たり前のようにやっていました。で、息子は帰ってくると、友達と遊びに行ったり、習い事があったりして、なかなか小学生って時間がないのかなと。忙しそうにしているんですけど。宿題は朝早く起きてでもやっています。それは、言わなくてもやるものだと思っているようで、やっています。

Eさん Eです。4年生に娘がいます。私自身も宿題は、学校の宿題、小学校・中学校、

やるものだと思ってやっていたのですが、子供は、ふつうに先生とのお約束だからやりますよとやっています。やっぱり、今年卒業した中学生の子がいるんですけど、その子のころと比べると、宿題の量がかなり減っていると感じます。トッピング学習もやっているんだか、やっていないんだか、自分が部屋にこもって「終わったよ！」って感じて、何も確認もできないので、やっているのか、子供の自主性だけに任せているので、親としても4年生くらいになると管理ができなくなっている、そこがむずかしいなと感じているところです。よろしくお祈りします。

Fさん 1年生の男の子、上は中学3年生の女の子がいます。宿題は、やらせるって感じのスタンスでやっています。やった方がいいなと。ただ、私自身が子供自身を振り返ってみると、地方の学校だったので、そんなに月に3回くらい？たいした宿題は出ていなかったような記憶があります。当時はそんなものだと思っていました。今の子どもたちは、私からすると、すごい、毎日宿題が出るっていうのは、大変だなと思いますが、子供にとっては学習習慣をつけるっていう点ではあった方がいいんじゃないかなと。言わないと、やらないタイプの子なので、やっと習慣ができてきたところだから、少なくとも減らしてほしくないかなという気持ちです。

Gさん 5年生と2年生に子供がいますGと申します。私自身、あまり記憶にないんですけど、宿題はやってたと思います。自分の娘と息子も、言わなくてもやるようですが、私自身、最近宿題がない学校が増えてきている事に対して、どうしてなんだろうという疑問と、これからの社会では、そういう、自分から自主性を重んじていった方がいいのかなと、その狭間で揺れ動いている感じで、今日、校長先生と皆様とお話できたらと思ってまいりました。

Hさん Hともうします。娘が5年生にいます。私は宿題やらないタイプで（笑）、最後の大学生まで、家では勉強できなかったですね。受験勉強も家ではできないので、図書館に行ったり、外に出ないと勉強できない。嫌すぎたのかな。ただ、4年生までアメリカにいたんですけど、向こうの時は宿題はなかったです。夏休み、えー9月から新学期なので、夏休みは学年と学年の間で、先生も変わるから夏休みの宿題はゼロ。なかったです。で、日本に帰ってきて宿題があって、多分、親にやれって言われて、それがいやで。家で何もできないようになって、未だに苦手で。テレワークも何もしない。（笑）何か、強制されるのが嫌いなのかも知れないんですけど、そういう子もいるし。ただ、中3の娘に聞いたら、「宿題なかったら、家で勉強するわけじゃないじゃん！」って言われてきました。皆さんの話も聞きたいと思ってきました。

Iさん Iと申します。2年生の娘と5年生の息子がいます。私自身も宿題は当たり前のようにやるものだと思ってたので、ちゃんとやっていました。子どもたちは、宿題はまあ嫌いで。帰ってきて、宿題は？って聞くと、最初「ない」って。（笑）まあ、ないわけないなと思って、連絡帳見るとあるので、「でしょう？」って言って一緒にやるんですけど、「教えて」って言われて、聞いた割には逆ギレするし。この前、2年生の子が、「1時間は3分だよ」って言って、「60分だよ」って言ったら、「誰が決めたの！そんなこと！」って言われて！ 私にも分からないって。そういうパチパチがけこうあって。家庭学習との向き合い方、子供との向き合い方もそうですし、どう取り組んでいいかが分からなくなって。だから、みなさんのお話を聞きたいと思います。

川中子 いい質問ですね。

Jさん 5年生と2年生に息子がいますJです。よろしくお願いいたします。自分自身は、宿題は必ずやらないといけな思っていたので、やっていました。今日、テーマを見て、そもそも宿題の意味って何なんだろうというのを学べればいいかなと思ってきました。おそらく、学習の習慣を定着させたり、もしくは自主性が重要だと、いろんな意味があると思うんですが、Gさんと同じ狭間にいるので今日は学びたいと思います。

Kさん 4年生と2年生に娘がおりますKです。私自身は、宿題はやるものだと思ってやってきました。で、子供も、今のところは何も疑問も持たずに、習慣的にやってはいるんですけど、トッピングのテーマがいつも偏ってしまっていたりとか。何か、やりたいことだけやっているというのがあるので、宿題をなくされてしまうと、トッピングだけ、自主学習だけとなると偏りが出してしまうのではないかな、と。私自身は、宿題をバランス良く学校で必要な最低限でいいので出していただければというふうには思います。

Lさん 2年生の息子がおりますLと申します。宿題の思い出は、私自身は、本当に当たり前のようにやるものだと思って小学校の時はふつうにやっていた、困ることもなかったんですが。覚えてるのは、中学校の時に、言われたことだけやっていたら、私は成績がひどくなって、ちょっとそこで挫折というかな。後悔をしたような記憶があります。なので、宿題をして、家庭学習の習慣をつけるという面を言うと、当時はただ言われたからやっているとただだったんだなと、今振り返ると思います。

Mさん Mと申します。2年生の娘がいます。私自身も宿題は大嫌い、夏休みの宿題は最後にまとめてやるタイプで。果たしてそれが身になるのか、って考えたら、宿題っていいのか？と疑問に思ったりとか。学校で勉強して、家でも勉強して、勉強、勉強、勉強って子どもたちに言うっていうのはどうなのかなって考えたときに、この宿題っていうテーマは興味あるなと思って今日は来ました。いろんな意見が聞けたらなと思っています。よろしくお願いいたします。

Nさん 6年生と4年生に娘がいるNです。よろしくお願いいたします。私自身は、当たり前のように宿題はやってたと思います。あまり、記憶にないんですけど。学校から帰ってきたら、遊びに行っていた記憶の方があって、でも学校で宿題やってこなかったから怒られたっていう記憶もないので、ふつうにやっていたんだと思います。で、娘たちは、正直、帰ってからすぐくたくたにしている、遊ぶ時間があまりないな思っているんですけど。6年生の子は、当たり前のように宿題はやるのが習慣づいています。ただ、学校で、今日は縄跳びがたくさん跳べたから、宿題はありませんよってご褒美の日があるんですけど、そういう日は「やった！」って感じで、家では何もやらないです。なので、あったほうが、いいのかなと思うのと、後下の4年生の子に関しては、宿題はなかなか尻をたたかないとやらないタイプなんです。結局やった宿題を、あんまり頭がないのか、学校にいつも出さないタイプで、「何で出さなかったの？」って、親としては不思議な感じです。自主性を重んじるために、トッピング学習とかは、4年生の子はすごく好きで、自分でノートにまとめるのが好きなので、ある程度宿題出されていた方が、家でもやってくれるのかなと。皆さんの意見をたくさん聞けたらと思います。

Oさん 5年生に息子がいますOと申します。よろしくお願いいたします。私自身も宿題はやるのが当たり前と思ってやっていました。ただ、遊ぶのに、遊ぶのがすごく楽しくて、夕方は遊び倒して、すぐ寝てしまって、朝慌ててやっていた記憶があり



ます。小学校の時は特に。そうですね、そんな感じで。娘と息子。娘が中学生にいますけど、二人ともタイプがまるで違って、娘の方は比較的自分で興味のあることをどんどん進めて、勉強できるタイプなんです。息子は、宿題があるから勉強する、なかったらやらない。基本的にはやりたくないって感じで。宿題があることによって、漢字も反復で、宿題だからやるって。やって覚える。じゃ、宿題がなくなったら、自分でそれを覚えるかっていうと、なかなかそれができないタイプなので、その子その子によってタイプが違っているので、一概にあり、なってしまうふうにするのではなくて、ある程度選択できるっていうか、課題をこなすこともいいよ、トッピングするのもどっちでもいいよと、選択できる漢字で幅を持たせてもらえるとその子のタイプに合った宿題ができるんじゃないかなと思います。

Pさん Pと申します。子供は1年生です。僕自身は、宿題は出ていたのかどうなのか記憶がないですね。夏休みは宿題があったと思うんですけど、それも朝やってた。特に苦があったというわけではないかなと記憶しています。で、娘が1年生なんですけど、やっぱり宿題をあまりやりたがらなくて、トッピングも言わないとやらなくて。ただ、楽しいことがあったときに、絵日記でもいってトッピングに書いてあるので、絵日記はすすんでやるんですけど。やっぱり、1年生は自分で問題を考えるっていうのが難しいので、親が考えるのも結構手間なので、やっぱり、選択できるって言われた意見が、やっぱりやらなかったりでもいいかなって感じはしています。他の方の意見も聞きたくて今日は来させていただきます。よろしくお願いします。

Qさん Qと申します。6年と1年に娘がおります。私自身の記憶で、小学校の時宿題をやったという記憶があまりなくて、遊んでいたりした記憶があります。中学校ですと、たくさんドリルをやらされた記憶があって、すごい苦痛な記憶があります。娘たちなんですけど、1年生は学童に行っているので、学童で宿題を終わらせて、自分で、6年生の長女は低学年の時には自ら楽しくすすんでやっていたんですけど、本人は今塾に通っていて、その課題もものすごくいいので、で、宿題も漢字の書き取り、1ページ、呪文のように書いていく。あれを見て、かなり時間もかかっている。ていねいにやって。塾の宿題もあって、学校の宿題もあって、かなり時間的に親としては、大変かなと思うんですけど、本人は宿題は当日やるもの、朝やるものじゃない、という認識があって、もうちょっと融通つけてやってくれないかなと思うんですけど。漢字の書き取りについては、正直、夫婦共に疑問に思っていて。あそこまでやる必要あるのかなと思ってたり。なので、宿題なくす方向で私は考えていたので、今回すごいテーマにしてくれてありがとうございます。楽しみに伺っていきます。

Rさん 1年生と3年生に娘がおりますRと申します。よろしくお願いします。私の小学生時代の宿題の思い出は、良い先生に巡り会ったと思うんですけど、「宿題はやらなくていい」「出すけど、やらなくていい」その「先生は、みんなの人生にずっと伴走できないから、だから一人で、自分で問題を見つけて、解決法を見つければいけないから、宿題はやらなくていい。だけど、何か問題にぶついたら、解決する選択肢を一杯考えなさい。」って言われました。一つの宿題に対して、最低10通りの答えの仕方を考えてきなさいっていう宿題をいつも出していました。だから、考えるのがすごく好きになって。やっぱり、考えている。考えているけど解が出てないので宿題ができてないっていうことがあって。そのプロセスが好きで、勉強が好きでした。で、今、僕は教職として、塾の先生をやりながら、取得させていただいているんですけど。子供に対しても宿題、やらなくていいって。宿題やらなくていいんですけど、自分で興味のあることが出てきたら、それについて一緒に勉強しましょって言っていて。宿題って、「宿」の題って書くように、おうちでやるタスクだと思っていて、で、宿題については、処理能力のアップにつながると思っていて、先生を喜ばせるために宿題をやってくださいって子供に言っているんです。人を喜ばせるような子供に育ててほしいので。自分は、そういう風に言っていて。上の子は今、ダイヤモンドは何で光るのかっていうのに興味をもって、下の子はイスラム教の人は何で黒い服を着ているのかっていうのに興味があるので。自分が「クエスト」って呼んでるんですけど、1日に課題を出すんですけど。それについて、調べてきたことを夜話してもらっているのをやっているんですけど。そういう、一人一人にあった、その子の特性を伸ばす適切な質問があると思うので、そういう問いかけが学校の中でもできる工夫があったらすごくいいなと思いました。

Sさん 2年生に息子がいますSと申します。私の宿題の思い出を思い返して見たんですけど、当たり前やるべきものという感じで、最初はコツコツやっているけど、途中飽きてしまって、最後はちょっと焦るっていう感じで。特に苦労したっていうことはないんですけど、今、今回の連絡で宿題をなくすって聞いた時に、私もすごい斬新だな、って。すごい、今までずっとあったもので。ちょっと、子供のことを思い出してみたら、上に中学生の子がいるんですけど、去年6年生で在籍していたんですけど、塾も通っていて、一番思い出深いのは夏休みの宿題ですね。塾の勉強と夏休みの学校の宿題が、正直私の想定していたよりもとても多くて、ドリルがとて分厚くて、それ以外にもすごいいっぱいあって。ああ、これを塾

の勉強と、宿題とこなせるだろうかっていうのが、不安がありまして。容量よくやる子ではなかったの、とにかく、丁寧にやりたいっていう子で一つ一つに時間をかけるんですね。これは、中学生に上がる前の段階で、総復習みたいなものが必要だっていうことで一応あるんだろうけど。で、他の6年生のお母さんに聞いてみると「そうでもなかったよ」っていう話を聞いて。多分、学校の先生方が考えていただいて、っていうのだと思うんですね。ちょっと、うちは、家庭の選択として塾の勉強をしたっていうのもあるんですけど、ちょっとそういうので、全くなくすっていうのも、どうなのかなと思うんですけど、ちょっとそこらへんでこういうテーマ、興味深いなって思いました。

一方、2年生の子は、また真逆で、絶対ないとやらないんですね。なので、トッピングとか、そういうのはすごくいいと思うんです。例えば、習い事のお勉強はするけれども、日記とかそうの習い事で書くことはないと思うので、いい機会。そういうのはありつつも、選択制みたいな感じで、やる子はこれをやりましょう、という柔軟なスタイルとかを取り入れていただけたらなと思いました。

Tさん 5年生に娘がいますTと申します。5年生になって、1年生からずっと当たり前のようにやってきた宿題を、今更何でやらなければいけないの？なんて思うこともなく、娘は普通にやっています。私としては、出されたことをそのままやっているのを見て、「この漢字、わかっているの？ 知っているの？」って聞いたから、わかっている、自分が脳みそに入っている、覚えている漢字をずっと書き取りしているんですね。そういう姿を見ていて、えっ何かこの時間って、って思うところが私にはありまして。で、娘は1年生からずっとそういうことをやってきているので、疑問にも思わず取り組んでいるんですけど、他にやってほしいことがいっぱいあるなって、私自身では、学習の仕方だったりとか。だったら、自分で考えることを、何か調べてやることの方がいいのではないかな。で、先生によって出す、出さない、がまちまちのなかって、他のクラスのお母さんの話とか聞いていて。

その辺りも、私自身よくわかっていないので、今日はお話を伺えたらなと思っ

て参りました。
Uさん 6年に息子がいますUと申します。よろしくお願いします。私が小学校の時は夏休みの宿題は、間違いなく最後の週に泣きながらやっておりました。宿題が嫌い、まあ、外で遊ぶのが好きだったんで。でも、宿題は多分全部出してきたかなと思います。で、今6年生の息子をみるとやっぱり宿題は嫌いで、宿題を広げたまま倒れ込んでいる(笑) 状態をよく見ます。それで、2時間くらいかかってやっと出てきたりするんですけど、たまに集中力がある時は30分くらいで、パツと終わらせて、本当にやったのか？と見てもらおうと、全部やってあって全問正解だったりするんですね。やっぱり、そういう家庭での一定時間勉強するっていうのは必要だなと思います。塾行っていたりとか、サッカーをやっていたり、習い事があつたりすると、なかなか自分の時間というのを持てないかな。量とか、さっき言ってた縄跳び跳べたから今日は宿題なしとか、そういうご褒美の日が入ってくると、子供たちももうちょっと楽に遊べる時間と勉強できる時間ができるのかな。

川中子 どうもありがとうございます。たくさんの方に来ていただけたので、いろんなご意見を伺うことができました。まあ、宿題やらなかったのはHさんだけ？(笑) でしたかね。皆さん、ちゃんとやっていた感じで。素晴らしいなと。夏休みの宿題と、普段の宿題とはまたちょっと違うかなと思いますが、Hさんが言った通りで、海外の学校は9月始まりだったりすると、6月にはもう終わっちゃいますので、二ヶ月全くないですね。宿題も全くない。私、ドイツの学校に勤めていた時には、宿題は全く出ませんでした。その間、やることもいっぱいありますので。日本に帰国する人もいますし、まあ、旅行に行くとね、ローマに行きました、パリに行きました、って、宿題は出さなかったけど、いろいろ勉強になることがたくさんありましたから。

ちょっと今、写真を見ていただきたいんですが、これは、昨日の朝の3年3組の教卓の上です。子供たちは学校へ来ると、こうやって宿題やってきたのを出すんですね。3種類くらい宿題がありますね、そして黄色っぽく見えるのは健康観察票で。熱測ってきたのを書いてくる。先生は、これ、いつ見ていると思いますか。朝持ってきて、これ、帰りまでに返すんですよ。(昼ごはん中?) そう、昼ご飯を食べながら見えていますね。先生たちの働き方を考えて、宿題の出し方について考えているところもあるんですけど、今日はその先生たちの働き方よりもちゃんとしたことについて考えてみたいと思います。

えー、皆さんに今日配っている物の中にこれがあるんですが、「家庭学習の手引き」というやつです。ご家庭に既に配ってあるものなんですけど。これを作ったのは、校内で、学力向上委員会というところなんですけど、今日はその学力向上委員長のO先生が来てくださっていますので、突然ですが、O先生に、これを作った経緯などをお話ししてもらいたいなと。O先生、よろしいですか？ 無茶振りです!

O先生 まあ、経緯というか、今日は、宿題についての考え方を私の方でもお話しさせていただきたいと思うんですけど。ぶっちゃけた話もしますので、変なこと言ったら、カット！ということ。(笑)

えー、教員生活37年目になって、若い頃から保護者会で宿題について保護者の方から何だかんだ言われて、いつも腹を立てていました。(笑) 同じ宿題しか出してないのに、「多すぎる」「少なすぎる」どっちなんだ! だって、人によって違うんだからしょうがない。同じ宿題出しても、5分、10分で終わっちゃう子もいれば、1時間2時間でもなかなか終わらない子もいるし、人によって違うんだよな。じゃ、あんまり多く出さない方がいいかな。で、少ないっていうんだしたら、後は家庭で管理してやってよ!っていうのが本音の気持ちもあった。でも、先生によっては、いや、これだけはきちんやらなければいけないんだ!って、まあ、多少先生によって差があるのはしょうがないかなって思いますよね。だからどれくらい適正かって、難しいですよ。

川中子 ちょっと、自分のお子さんの宿題は多いと思いますか、少ないと思いますか。ああ、そうですか。

本校の「宿題」の考え方

O先生 そうなんですよね。余談ですが、算数の世界では、「多い」「少ない」「広い」「狭い」「長い」とか「短い」とか「大きい」とか「小さい」という時には、算数の時にいう時には、何かと比べて大きい、とか何かと比べて小さいとか、この範囲の中で一番多いとか、一番少ないとか、2番目に多いとか、そういうふう比較的の言葉を使いましょう。君たちは「大きいね」と言われても自分では「小さいな」ということもあるでしょう。比較の問題なんだな、と。言葉の使い方も難しいな

と思っていますけど。議論が難しいですね。

宿題って、いろんな側面があると思うんですけど、長い日本の歴史の中から考えていくと、それが理不尽であっても何であって、それが課されたものならやり遂げる。社会の中では重要な。この中でもいかに理不尽なノルマを課されて頑張っている方もたくさんいらっしゃるかと思いますけど。とにかく、成し遂げる。それはいつ？早めに成し遂げるのか、ギリギリになって、納期にきっちり間に合わせるのか。まあ、そういう能力はある程度必要なんじゃないかな。だから、宿題はやるべきだとか、やらなくてもいいといういろいろな考え方があるでしょう。まあある程度は子供も人として社会生活を送っていく上では、それなりのルーティンを確立するっていうのは大切なことだなと思います。

その中で課されることが多いのが、習熟していくこと。計算を何回もやって、間違えなくなるようにやっていくとか、それから漢字をいっぱい書くとか。書きすぎて訳分からなくなってしまう。何かもう、ゲシュタルト崩壊をおこすような。(笑) そういう、習熟していったり、繰り返しやる。その部分の宿題が、今までのほとんどの方の「宿題」のイメージ。そうやって育ってきたし、私たちがもやってきたし。そういうイメージだろうと思うところもあるんですけど。

「トッピング学習」とは？

で、トッピングの話になっていくと、その中で、じゃ自分で考えてやってみないって言われたときに、やっぱり何やっていいかわからない。ということは、課されたノルマをしっかりとやっていくという能力ややり方は、皆さんも経験してきたし、私たちがも経験してきたし。こうやっていけば、きちんとできるんだ。大事だよ。中身についてはいろいろ議論はあるけど。君にとっては大事じゃないかもしれないけど、みたいなものもあるかもしれませんが。そういう経験を皆さんもして、それで成功してきた人がたくさんいるわけですよね。一方で自由にやってみると言われたときに、できない、何をやっていいかわからない。どうやっていいか。っていうことに関していうと、トレーニングできていない。自分で課題を見つけて、それに対してどういう風に考えてやっていくかっていうのが。言われたことはきっちりやるけど、自分で考えて課題を見つけて、課題を解決していくっていうトレーニングが、現状足りていないんじゃないかなっていう考えを元に、トッピング学習が始まりました。最初のころはうまくいかないかもしれないけど、そのトレーニングは自分たちもあまりされていなかったし、自分たちもさせてこなかったし。だから皆さんいろいろやって、どうやっていったらいいんだと。親としてもどうやったらいいかわからないという。まだ、手探りの状態です。今の日本は。これがしっかりできているってところはまだほとんどないんじゃないんですかね。ここが国際的にも弱点ですよね。たぶん、我が国の、です。そこのお手伝いをできるように、このように考えていったらどうですか？各学年の先生、こんなことがありますよ。こういうところから見繕っていただいて、自分で適したものをやっていながら。まあ、ここに書いてあることじゃないものでもまったく問題ないの。そのきっかけとして。自分の、もう少し習熟したいなっていう目標でもいいと思うんですよ。あるいは、もっと新しいことを探求したいなっていうことでもいいかもしれない。そんなことの、ちょっとしたお手伝いになれば。はい、これをやりなさい、この通りにやりなさい、これをこなしましょうって言うてる、さっきの理不尽なノルマを課されているルーティンの方には行って言っちゃうので、そうじゃないイメージで利用していただけたら、作った側としてはうれしいところです。まあ、これにとられず、試行錯誤しながらやっていっていただけたらと。以上です。

川中子 ありがとうございます。今、ここに書いてある、全員が取り組む課題っていうのが「宿題」、ここが「トッピング」ですね。いろんなことが挙げてあります。それから、「タブレット学習」っていうのが令和4年度版には入ってきました。タブレットを使って、例えば1年生の子が4年生の問題をやることもできるんですね。今、ドリルですから、算数の問題なんかは、1年生終わっちゃった、2年生終わっちゃった、って。メダルをいっぱい獲得しました、って言うこともできるんです。そういうふうな、時代はどんどん変わってきている中で、私が今言っているのは、この一番上の部分ですね。全員が取り組むべき課題、宿題。このことについてこれからどうするか考えているんです。こっちは当然やった方がいい。トッピング学習。そんな話ができたらなと思っているんですけど。

なぜこういう話をしていくかと言うと、今年、自立 自ら学ぶ、考え、行動する人 を育成するために、主体性をどう子供たちに育てていくか。主体的であるをどう育てていけるか。どうしたら主体的になるのか。今、皆さんの話を聞いていて、「言われたから」「やるものだから」やるって、自然にそう思っていますよね、お子さんたちは？ そのこと自体を疑ってかかるっていうのが今やっていることです。今、そこに、私は取り組んでいるんですけど。自らの思いや行いを、自分の意思で決定し、実行していくこと。自らの行動に責任を持つということ。それから、「やらされている」から「自分から進んでやる」というふうに変えて行きたい。で、これをやっていかないと、子供たちの自己肯定感が育たない。ということを感じるんです。自分からこれやりたいと思ってやったことが、なんとかできるようになった時に、やった!っていう気持ちになるのと、最初から敷かれたレールの上を歩かされて、あそこまで行ってごらんと言って、あそこまで行った時のやった!という思いは、全然違うんじゃないか。で、そういうふうな考えて行くと、宿題みたいに、やらされて、ただ10回書いてきなさいみたいな感じで、10回書いたところで、それで何かになっているんだろうか？ 私の友達なんか、すごかったんです。私は結構真面目だったので皆さんと同じように宿題もちゃんとやっていたんですけど、例えば宿題の「宿」っていう字を書けば、「宿」「宿」…って書いていたんです。で、友達が隣でやってるのをみたら、ウ冠、ウ冠、ウ冠…それからにんべん、にんべん、にんべん…ってやってるんですよ!(笑) すげー、これいいな!って思いました。だけど、何となくこれはあまり意味がないなと思いました。でも、そういうふうな工夫している子いませんか？ それって、何の意味があるのか。さっきゲシュタルト崩壊って話もありましたが。漢字の書き取りなんかは、1回書けば覚える子もいるし、見るだけで覚える子もいるし、100回書いても覚えない子もいます。覚えられない子もいるんです。私が英語の教師だった頃、単語を100回書かせるみたいなことをよくやっていたんです。朝の9時から初めて、夜の8時まで書かせたりしたこともありました。いっしょに、見ていて。それでもその子は覚えるようにならないんですよ。今考えればその子はそういう特性があったんだろうな。その時は、その子にこれをやらせる事が使命だと思ったし、その子をそのまま卒業させるなんていうのは、自分にとっては職務怠慢だと思っていました。今考えてみると、あれはあの



子には地獄のような時間だったろうな。かわいそうなことをしてしまったな、と。で、そういうふうな考えていくと、自分から進んでやれるようになることが大事な、ということで、今いろんなことを考えています。

もう時間があまりなくなりましたが、少し延長してもいいですか？
これが、最近名古屋のテレビで放送されたやつなんです。

(ニュース報道 「宿題をやめた小学校 (名古屋テレビ)」 視聴)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/52e2b35273e439c5a880be4cc05f3fd21335c2a3>

宿題は意味がない？

川中子 というのが、岐阜の方の学校の例です。まあ、今のお話の中でもいろいろとツッコんで行きたいところもあるんですけど。で、もう一つ紹介したいのは、教育哲学者の苦野一徳さんという方がいて、様々な教育改革に取り組まれているんですが、その方が書かれた中日新聞のコラムで、夏休みの宿題について書いているんですが、皆さんにお配りしたものの太字になっているところを拾い読みしてみます。「小学生に関しては、宿題に費やした時間と学習成果との相関はゼロというショッキングな研究がある。また、特に学校の勉強についていけない子どもには、宿題は勉強嫌いをさらに悪化させる大いなる要因になっているとも言われている。」中学生、高校生には宿題は意味があるんだそうです。で、特に全員一律に同じ宿題させる必要はない、ということ。それから、それぞれにあった内容で自分のペースで進められた方がいいし、発達段階に応じて、子供達にある程度自分で選択できるようにさせるといいだろう、と。まあ、今後学校は夏休みの宿題に限らず、宿題を個別化して行ってはどうだろうか。ということで、この「個別化」というのが非常に話題になっていて、その子その子にあった課題。それが、ICTの活用によって可能になっていくのではないかな。ドリル学習など。本当にすごく便利ですよ。漢字の書き取りなんか、例えば、間違えた書き順で書くとバツと教えてくれますので。もうちょっといいのになってくると、あなたの間違いの傾向はこうですからこの練習をやりなさいって。いっぱいある問題の中から、その子に合ったものを自動的に AI がチョイスして提示してくれる。そういうのも学校に紹介されています。ちょっとお金がかかるので、まだ入れてないんですけど。そんな感じにはなっているんです。「個別最適化」。

今、必要なことっていうのが、自ら考えてできるようにすること。どうなんだろうか、本当に宿題がないと子供たちは勉強ができないんだろうか？ みんなそう思っていますよね？ みんな思っているんですけど、先生たちも。宿題出さなければ勉強しないと思ってるんです。私も中学で教えたときに、こんなのやっても何の意味もないぞと思ってるんですけど、宿題は出すんですよ。先生も意味ないと思ってるんです!(笑) 親のお金で買ったものだから、使わないと申し訳ないって。今考えてみると、ひどかったなあと。もっと効果的に活用すればよかったんですけど。自分が教えるが精一杯で、だけど、ドリルは買わせるものだったことになっていて、疑いもなく、一応買わせたって感じで。そんなので子供はやらされているわけですから。子供は子供で、答え全部うつしてはいやりましたって出す。まあ、答え写してでも出す方がマシなんです。出さない子には、点数引くからな、とか脅かしたりして。そういうのが本当に学力のためになっていたのかってことですね。

今求められているのはHOW?とWHY?のみ

それから、学力そのものの考え方が変わってきていますので、知識・技能そのものだけが必要ではないですから、もう5 W 1 H の中でですね、これから必要なのは、HOW と WHY だけなんです。WHO とか WHEN とか WHAT ですとかは、これ (スマホ) で全部済みます。昨日、4年生の授業見に行くと、月のことを勉強していたんですけど、先生が月の写真出して、これ月だよ。何か気がついたことある?っていった瞬間に、タブレットで調べ出した子がいて、先生は「それ、やめて!」って言って!(笑) だから、月が何か。この形の月は何というかというのは、これ (スマホ) でできるんです。もちろん、知識はいっぱいあったほうがいいですよ。絶対、あったほうがいい。ただ、知識そのものだけでは足りないんです。「誰が?」「いつ?」っていうのは知識。だけど、「どうして?」「なぜ?」というのは、初めてそこで答えがわからなくなるんです。答えに正解がなくなるからですね。なぜ? この問題を解決するには、「どうやったらいい?」というのも答えに正解がない。知っているか知らないか、の問題は、頭の中にある記憶が出てくるか出てこないかだけの問題。だけど、HOW?とか WHY?

は、頭を回転させないとならない。そして、今求められているのは脳を回転させる方の力なんです。子どもたちが正解を出せるかどうかよりも、考えたかどうかの方が大切。だから、子供が「分かりません。」っていうじゃないですか。知識を聞かれて「わからない」というのは「知らない」ってだけです。だけど、どう?とかなぜ?に対して「分かりません」というのはOKなんです。考えてもすぐに答えが出ないのは当たり前の問いだからです。だから宿題についても、宿題をやったかどうかよりも、どうやったかというプロセスの方を評価していかないといけないと思うんですね。

よくあるこの、「外発的動機付け」「内発的動機付け」というのがありますが、子供がどちらの方が伸びるかという、「外発的動機付け」つまり、何かやったらご褒美を挙げるっていうやり方ですが、自分が興味のあることをやる「内発的動機付け」のように長続きしないんですね。返って、子供のやる気を失わせるっていう事もあります。このプリントの裏に、てい先生っていう保育園の先生、最近私はすごくはまっているんですが、その先生の書いたものがありますから後で読んでみてください。本当に子供がやりたいことをやっている時っていうのは、褒められるとか何とか関係なくやるんですね。

さっき、偏ったらいけないんじゃないかっていう意見もありましたけど、偏ったらいけないって誰が決めたんでしょうか? 今、偏った人が世界で大成功を収めているんです。今、世界で大成功を収めている人、GAF A と呼ばれる会社を作った人たちは、全員偏っています。だから、まんべんなくやっていくっていうのは、使われる身としてはいいんですが、自分が問題を解決して何かを作り出していかねばいけないっていうときにはそれだけじゃ足りないんですね。そうするとどういふことが必要かというのを考えていかねばいけないですね。

あ、せっかく小学校の副校長先生がいますから、副校長先生に宿題はどうやって来たかって聞いてみましょうか。先生なんかはやっぱり、鬼のように宿題出しましたか?

副校長 はいっきり言っていますか? 私は副校長になって、今3年とちょっと経ったんですけど、ちょうどこの、主体性とかっていうのが出る狭間というか、ちょっとずつこういう意見が出てきたって感じだったんですね。教員として、私も教務主任をずっとやっていたんですけど、教員としてこの話になじめなくて、私なんかは典型的な、宿題出さなかつたらこの子たち絶対何もやってこないぞ、っていうようなタイプでした。で、残念ながら、結構元気の良い子たちを常に担任していましたので、5、6年の担任をやっていたので、宿題を出さない子がいたら、もう烈火のごとくしかりつけて、保護者呼んで…っていうようなことをやってきてしまいました。ちょっとでも漢字が曲がっていると、「あー、ダメだね。」で、私、だいたい3回あるんですけど、かなり漢字の丁寧さは厳しくやり過ぎちゃって、3回くらい保護者の方から、担任したときすぐクレームで、「ちょっとお父さんと一緒に行っていいですか?」ってお父さんとお母さんがいらっしたというのが3回くらいありました。副校長になって、やって主体性の大切さを感じているというようなところですよ。

求められる力が変わってきている

川中子 みんなそれが正しいと思ってやって来たことなので、それが間違っていると否定するわけではなくて、今、新しいものを求められている、時代がかわってきているよって事なんです。そうすると、何か、漢字10回書いてきなさいなんていうのは、ある子にとっては意味がないのだったら、無駄な時間になるわけで、その時間で他のことをやった方がいい。何でもかんでも大人が子供にやることを教えてあげちゃいけないと感じるんですよ。先生たちにも「不親切な先生になってください」とさかんに言ってるんですけど、何でも先にレール敷いてあげて、ハイこのまま行けばね、転ばないからね、大丈夫だからね!って、そこを歩かせることに何の意味があるのかって。考えなければいけないと、強く思っています。

というわけで、今後宿題をどうするかっていうのも、先生たちとも話し合っていかなければならないんですけど、今日は、こちらのが先にこの話をしてしまっているんですけど、今日、もう時間が来てしまっているんですけど、あと10分くらいよろしいですか? せっかくなのでお近くの方とご意見を交換していただいで、よろしいですか。では、どうぞ。

(グループ懇談)



川中子 それでは、ありがとうございました。ちょっとね、今、感動しています!(笑) 三吾の保護者の皆さんとこんな風に学校の事を考えてくれるようになってきたんだと感動しています。今日、サロンがはじまって5年目になるんですけど、最高の参加者数です。本当に、皆さんと一緒に子どもたちのためにできることを考えられるようになってきたって。これで、あんまり多くなるとこういう話も少なくなっちゃうのかなと。(笑) 本当なら、みなさんから感想などいただきたいんですが、最初、皆さんから一言ずついただいたら30分かかってしまいましたので、後でアンケートフォームを皆さん宛に直接送りますので、ご意見等はそちらに書いておくだけいただけますか? 本当に、今日はありがとうございました。学校はこれからのことを今真剣に取り組んでいるところです。何か、一つ一つの事を疑ってかかればいけないと思います。当たり前のようにやって来たことを疑ってかかるといふことをやっているんです。これはコロナを通して一時停止みたいになって見えるようになってきたことで、私たちは単純にコロナの前にもどすのではなく、新しいものを考えていければと思います。今日は、本当にありがとうございました。